

連合北海道は5月31日、昨年に引き続いてワークルールについての寄付講座を国立大学法人室蘭工業大学で実施した。今年も連合北海道齊藤勉副事務局長がゲスト講師として招かれ、松本ますみ教授(工学研究科)の授業を受けているI部(昼間)、II部(夜間)の学生約180名(主に1年生で海外留学生も複数参加)が受講した。



講義には連合本部作成の若者向け資料などを使用した

冒頭、鳩が出てくるマジックで学生の心を驚ばかみした後、学校で教わるのが少ないワークルールを「ブラックバイトクイズ」などを入れながら分かりやすく講義した。マスコミが取材に訪れているなかだったがブラック企業の実名を出したり、若者を食い物にする巧妙な手口を実際にあった事例で紹介するなど、労働相談から解決までのストーリーを漫談調で話すことで受講者の理解促進、連合労働相談の解決の見える化にも繋がった。学生からは「初めて聞く事が多くあっという間に時間が経過した」と大好評だった。(受講レポートは今後の連合活動に活用させていただくことになった)

今回の授業のポイントについて齊藤副事務局長は、「最低限のワークルールを学んでいただく他に三つのメッセージを送った。一点目は、ブラック企業やブラックバイトと分かっているにもかかわらず辞められない心理状態をDV(ドメスティック・バイオレンス)時の心理状態と重ね、私は『ワークキング・DV』(造語)と呼んでいます。『ワークキング・DV』を認識して解決に向けて1歩踏み出す「辞める勇気」を持って欲しいということ。二点目は、自分の人生は親や誰かの代わりに人生ではないので、自分らしく自己受容と自己肯定を持ちながら大学生活を送って欲しいということ。三点目は、一人で悩まず身近な大人や連合に相談して欲しいということをお伝えした」と話す。



熱心に受講する学生

授業後、質問が複数寄せられ、働くことに悩んでいる学生もいたことから、地元胆振地協室蘭地区連合の浦野事務局長が労働相談ダイヤルの紹介や気軽に連合に足を運んで欲しいとPRした。



連合をPRする室蘭地区連合浦野局長

なお、齊藤副事務局長は7月12日にも同校清末愛砂准教授の授業にもゲスト講師として招かれた。

法律文化社発行：ブラックバイトのアンケート調査や昨年の連合北海道寄付講座について掲載されています

